

「旧校舎の思い出」 岩田 実千代

私の母校であり、また大学卒業後、就職して定年退職後の現在まで勤務させて頂いている昭和学園高校は、新校舎が完成し輝かしい発展をしています。私は昭和45年4月、当時は昭和女子高校という校名であった被服科に入学し、48年3月に卒業しました。3年間の高校生活では、和洋裁の理論や技術を学ぶことに夢中でした。そして私は、この高校時代に自分の将来・進むべき道を見つけることができました。

高校1年生の時は今は取り壊されてしまった西館、2年生では東館の教室で学びました。3年生になり、今度取り壊される南館3階が教室でした。そして2階の被服実習室には洋裁の授業で3年間お世話になりました。上手に縫えなくて苦労したこと、やっと出来上がった洋服を前にした喜びなど被服実習室には思い出が沢山あります。

私は高校時代に学んだ被服の勉強を更に専門的に勉強するために大学に進学しました。大学4年生の時の教育実習は、母校の被服実習室でしました。理事長先生・元村校長先生・諸先生方を前にして緊張してうわずった声を張り上げたことが懐かしく思い出されません。昭和52年4月、大学を卒業した私は母校の事務室に勤務しました。そして、その年の9月中旬、私の恩師であり当時、被服科の中心であった寺田先生が急逝されるという悲しいことが起こりました。学校の要請で急遽、高校家庭の免許を持っていた私が寺田先生の後を受け継ぐことになりました。それからの三十数年は、生徒と共に手を取り合って悲喜交々の日々を過ごさせて頂きました。その間に被服科は服飾科、服飾デザイン科と科名を変更しました。

学校創立以来の伝統を守り、生徒各自が自分の手で一生懸命にものを創りあげていく姿を見て、私は彼女達を励まし指導し達成の喜びを味わいました。しかし、残念なことに平成19年に服飾デザイン科は募集停止となり学校創立以来70年に及ぶ服飾デザイン科の灯は消えました。私は服飾デザイン科の担任として、最期の生徒と共に3年間を過ごしました。最後の年は、教室と被服実習室を兼用で過ごしました。まさか教室と被服実習室を兼用で使用する事になるうとは、想像もしていなかったのですが取り壊されることになった今は、生徒にとっても、私にとっても一生忘れることのない心の中の大切な思い出の教室になりました。

被服実習室の準備室には、先輩方の製作品が多く残っていました。70年の歴史の中で丹精込めて縫い上げた打ち掛けや振り袖、ウェディングドレスは服飾デザイン科の伝統と歴史と努力の証だと思います。これは何とかして残したいと思っていた時、服飾デザイン科最期の年を迎えた生徒達はこの作品を一人一点ずつ、リメイクして「ホームソーイング作品コンクール」に応募することになりました。先輩方や指導の先生方の想いが込められた品を生徒達は新しい創造性と意欲と希望を胸にリメイクし、「第30回記念特別部門賞」を獲得し夢を顕現しました。その後、多目的教室になった被服実習室は職員会議や授業、応援団の練習場所として利用されました。

時代の推移と共に校舎も変わっていくのは、世の慣いだと思います。その姿は失われてしまっても被服実習室は、私を始め多くの卒業生達を育ててくれた大切な場所だと思います。消えてゆく被服実習室よ、大変お世話になりました。ありがとうございました。